

[解説文]

私たちは、「統合的価値観に基づく自己革新」こそ、個人においては価値ある人生を送るために、企業においては社会にとって価値ある企業であるために、絶対必要なものだと確信いたします。なぜなら、「何が価値あるもので、何が価値のないものか」を判断するのが価値観だからです。人がものごとを認識し、考え、判断する前提となるものが価値観なのです。

もちろん個人個人の価値観は異なるものです。ここで重要な事は、「どのような価値観がもっとも究極の精度の高い価値観か」を見極めることです。なぜか、この価値観のレベルが低いと、偏った認識や誤った判断をせざるを得ないことになるからです。周囲の他人から「考えが浅い、自分勝手な人間だ」などと悪い評価が定着するのは、そこに原因があるのです。本人は精一杯努力していても、周りからの評価が得られないのは、そこに問題があると考えなくてはなりません。

そこで個人にしろ、組織にしろ、価値を創造していくためには、精度の高い価値観が必要となります。それは世界全体をも巻き込む絶対原理であり、誰もが納得できる統合の原理をもとにした思想的背景を持つ価値観です。その事をわれわれは「統合的価値観」と言っているのです。実は、この統合的価値観を身につけていく過程を「人が成長する」と言います。ここでいう「自己革新」のことでもあります。

そして、企業は戦争をしています。人生もまた戦いと言われます。統合的価値観を正しく受け止め確信し、それを身につける事により、自分のものの見方・考え方の間違いを検証し、人生最大の敵である真の敵「自分自身の心の内面に隠れた敵」を浮き彫りにしてくれます。

自分自身にとっての真の敵、それは「楽しんでうまくやりたい」とか「自分さえよければそれで良い」といったような自己本位な考え方です。そして、統合的価値観はその戦いに挑む智慧と力と勇気を与えてくれるのです。「自分自身にとっての真の敵をはっきり見極め、勇敢に戦う、そして敵を味方にしていく」このような人間がドンドン育っている。この集団こそ強い組織であることを確認しておきたいのです。

さらに、統合的価値観を確信していくことは、自分が自分を認められるようになっていくことでもあります。自分で自分を真に認められた人が、有意義な人生を送れる人なのです。この事によって統合的価値観を共有しあえる組織においては、強靱な信頼関係が成立することになります。

また、自分の問題は周囲の問題と深く関係しています。環境は自分自身のありのままの姿をしっかりと写し出す鏡だといわれています。「職場の問題を自分の問題として捉え、自分の周囲の問題をすべて自分の問題として捉える」という考え方、これが「統合的価値観」です。

これは人間にとって不可欠な真の主体性を確立する上でなくてはならない考え方です。人間は、このような価値観に目覚めた時に、真の人間的成長を成し遂げるのです。換言すれば、「問題に対して主体的な行動が出てこない限り実力は本物ではない」ということです。

この統合的価値観こそ現実変革を伴う価値観であります。企業においては、周りの問題を自分の問題として捉える当事者意識と、その解決のための行動が求められます。統合的価値観をもって自分に確信を持てる人をわが社では、「リスクを恐れない使命観のある人」といって評価しています。

「人の運命は出逢いによって決まる」といわれます。統合的価値観と素直に出逢い、統合的価値観を確信する事が出来れば、私たちの人生は大変価値あるものになっていきます。宮沢賢治の言葉に「世界人類の人たちが幸せにならない限り、真の個人的幸せはありえない。」という言葉があります。私たちは自分のことだけではなく、自分の家族の事だけでもなく、自分の会社の事だけでもない、お客様はもとより、地域社会、日本国、世界の国々、大自然や宇宙の真理にまで、貢献できるような人間を目指していきたいと思います。

人は自分の存在原因を認識できて、初めてそれに対して貢献できるものなのです。「一人ひとりが自分の原点である存在原因を自覚し、使命を確信し、真に自分らしい自分を発見していく、その置かれた環境の中で問題の本質を的確につかみその問題を価値あるものに転換していく、苦しい現実にもぶつかっても智慧と力と勇気をもって立ち向かう。」そして、そういう人を育てて行く。

実は、この人が「統合的価値観の究明に創意と工夫を重ね、すべての個人が自己革新を断行できるように、信頼の絆を創る人」ということになるのです。私たちが目指すところ

おなか元氣ぐる一ふ

代表 白仁田 裕二